



五劫山

# 法蔵院

海辺 ウルトラ木魚の寺

お寺には 山号、院号、寺号、と三つの名前がついています。

当寺のそれぞれの名前は五劫山法蔵院阿弥陀寺です。

いずれの名前を取るか決まりはありません

当寺は法蔵院と院号を呼称しています。

<https://houzoin.or.jp/>





# 五劫山 法蔵院 阿弥陀寺 由緒 沿革

ごこうざんほうぞういんあみだじ

五四世位職 照譽政雄記す

開山 元久元年 1204 年 土御門天皇の御代 源実朝の頃

開祖 明円上人 天台宗の聖覚法印の高弟（仁安二年 1167-1135）法然上人の弟子

寺歴 1. 浄土宗開祖法然上人の教えを信奉して浄土宗に改められた

2. 京都 総本山 知恩院の直末だった

3. 貞享年中 1686 年頃鎌倉光明寺の末寺となる

4. 元禄 12 年 1699 年 総門建立

5. 嘉永年間 1847 年鎌倉光明寺の山門改築の際、  
旧山門移築(間口 7 間、奥行 2 間)

6. 関東大震災にて、総門と庫裏を残して全壊

7. 大正 12 年に関東大震災で残った本堂の古材を売却し、仮本堂を建立

8. 昭和 47 年に本堂の再建

9. 昭和 55 年庫裏、昭和 60 年客殿、昭和 63 年に総門が再建され現在に至る。

10. 平成 18 年 4 月晋山式、法然上人八百年大遠忌を勤修。

末寺 雲光院、真珠院/境内 往生院・円乗院・永楽寺・霊川寺・浄慶寺

年中行事 修正会 1/1、御忌法要 1/23、春秋彼岸中日法要、

花祭り 5/8、施餓鬼法要 8/17、

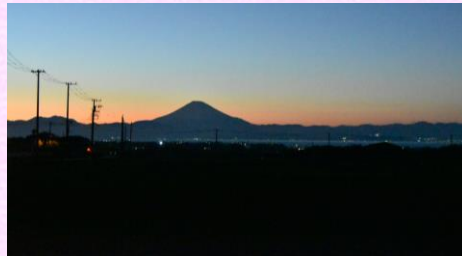


## 由緒

弘治・永禄の頃(1556~58 年)房総を掌握していた里見氏が勢力拡大のために、小田原 北条氏との抗争で、三浦侵略を繰返し、当寺はその戦場となり兵火のために、諸堂宇は灰燼に帰す。その際、里見氏は三浦城の攻略が出来ないまま、当寺の仏像、梵鐘等をもち去りましたが、途中海が荒れて仏像を海中に投げ捨てて逃げ帰りました。

この仏像は三浦・菊名の里に流れ着き、無事当寺に帰ることが出来る。その縁で菊名の里に、現在も檀家数拾戸があります。そのお檀家の便利を計って、永楽寺を建立したと伝えられています。

北条氏は当寺の諸堂宇の焼失を嘆き学問所をここに移建改築、九間半・七間半の本堂建立されました。



[ライトアップの様子](#)

[位職おすすめ！  
グルメ&絶景スポット](#)

[スノーボード](#)



[Sakura](#)



[Ryusho](#)



[樹木葬・合同墓ご案内](#)

法蔵院 樹木葬

検索



[ペット墓ご案内](#)

法蔵院 ペット墓

検索





# もっと「法蔵院」を知ろう！

十夜法要 11/8-11/9

毎年厳修される十夜法要は、鎌倉光明寺第八世観譽祐崇上人が後土御門天皇のお許しでお勤めされた「鎌倉光明寺の十夜法要（1495年）」を、十夜10日間のうち4日を光明寺が勤め、残る6日間を 不断寺/長井、光念寺/三崎、当寺の三カ寺に2日間ずつお許しをいただき、勤修されはじめた因縁の深い法要です。その故か、三浦三市(武山不動縁日・宮田の神事相撲)の一つとしてその名が知られ大変賑やかに勤められております。



総門/山門の伽藍（がらん）は、左甚五郎（1634年亡）作？

現在の山門に残る「龍の伽藍/がらん彫刻」は創建当初1699年のもので「荒れ狂う波間に龍を配し、その裏には梅と二羽の雉が彫られています。



この龍は時化の夜に、海上を泳いで対岸の房州(千葉県)に渡り、龍が海上で暴れると海が荒れ漁師が漁に出られないので、龍が暴れないよう、龍の左眼に五寸釘で「目打ち」をしたところ、龍は暴れこともなく海も穏やかになったと伝えられています。一説に 左甚五郎（1634年亡）作との説もあります。是非「龍の左目の釘」を見つけてください。

「白い木魚」「白い塔婆立て」令和3年9月

長年使ってきた木魚と塔婆たてを修繕しました。白色は世界でひとつ！

「ウルトラ木魚」と共に「📷📷」してください。



「風神雷神」令和4年9月

境内の水汲み場の屋根ご覧ください。

「村秀鬼瓦工房/新潟県阿賀野市」作  
かわいい「風神」「雷神」安置





# ウルトラ木魚

2021.9.17 安置

- 材質 「楠」
- サイズ 高さ 20cm×幅 30cm×奥行 40cm



木魚をたたくバイは  
ハヤタ隊員が所属する  
科学特捜隊のマーク  
です

## ウルトラ木魚 世界に3つ!

仏壇職人でありデザイナーとしても活躍されている愛知県幸田町の「都築仏壇店」の2代目都築数明氏（つづきかずあき/写真右側）の手によって生み出された「ウルトラ木魚」。

以下 都築氏からのメッセージです

木材は楠を使用しております。木魚の制作では一般的な材料です。木魚の匂いを嗅いでもらおうと分かるのですが、虫よけの効果がある良い香りがします。また適度に固く粘りがあるので割れにくいいため、長く使う木魚に使用しております。

制作のきっかけは、円谷プロ50周年のイベントの時に50人のアーティストの中に入れていただけたことです。

ウルトラ木魚誕生について



その中で僕が提案したのが「ウルトラ木魚」になります。理由はウルトラマン35話「怪獣墓場」という回で今まで倒した怪獣を供養するシーンがあります。その中にお坊さんと共に木魚が出てきます。きっと、この映像を作った監督も子ども達に命の大切さを伝えたかったのだと思い、アート作品としてウルトラ木魚が誕生しました。

ウルトラマンの本編の中で怪獣供養というシーンがあったため商品化された物です。

- ウルトラ木魚 1 福井県 安楽寺様
- ウルトラ木魚 2 愛知県 大法寺様
- ウルトラ木魚 3 法蔵院所有

お寺は葬儀、法事をするところ  
もちろんその通りです。  
でも法蔵院に行ったら「ウルトラマンの  
木魚があった!」「楽しいね!」  
そんな思いで安置しました。  
ぜひ写真撮影に来てください!  
「南無シュワッチ!」

白い木魚は  
世界に  
1つ!



コラム

## 木魚の起源

僧侶が法要などで、「ポクポク」と一定の間隔でリズムをとりながら打ち鳴らす木魚。

一見すると魚とは似ても似つかない形をしていますが、その模様をよく見てみると、魚の鱗が掘られていて、



法蔵院の大木魚

そこに「木魚」の名の由来がうかがえます。

魚を彫るのは、「昼夜目を閉じない魚のように、怠らず常に精進しなさい」との戒めからといわれます。

木魚の起源は、僧侶たちの起床や集合の合図のために打たれた版木(吊り下げられた四角形や六角形の木の板)にあるとされています。その後、細長く魚の形に彫り上げられた魚版(魚鼓)が生まれますが、より良い音が出るようにと中をくり抜き丸くするなどの工夫がなされ、中国の明代には現在の木魚に近いものが作られたようです。

日本では、江戸時代、黄檗宗の宗祖・隠元禅師(1592~1673)が伝えられました。浄土宗でお念仏に用いたのは、江戸時代中期頃からとされています。